

木津きづの渡口わたくし〔京師けいしよりの大和街道やまとかいだうなり。いにしへは橋あり、天平十三年ぎやうぎほ行基菩薩さつ泉川に橋をかけて供養を修せしな

り〕木津里きづのさと〔いにしへは泉里いづみさとといふ。聖武帝しやうむていの御宇、南都大仏殿なんとだいぶつでん建立の時、国々より材木を運送し、此里に着しより木

津の名あり。此所より奈良へ壹里半なり。人家多し布を曝して産業とす〕

現存六 夏ちかくなりにつけらしな山城の泉いづみの里にかはづ鳴くなり

従一位良教